

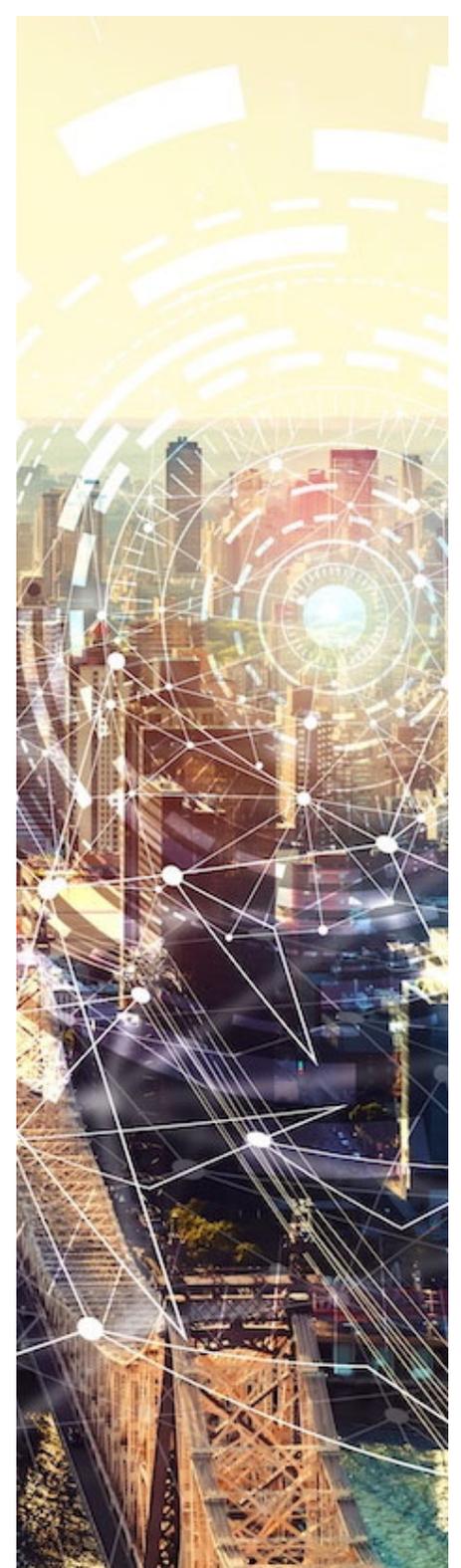
通貨と銀行の将来を考える研究会（第2フェーズ） 統合報告フォーラムの概要（5月18日）

株式会社野村総合研究所
金融デジタルビジネスリサーチ部

2022年5月

NRI

Share the Next Values!



問題意識とフォーラムの目的

- これまでの研究会での議論を通じて浮かび上がった二つの大きな問題意識について、今後の調査や検討に向けた方向性を探ることを目的とする。

問題意識1：デジタル通貨の エコシステム

- CBDCが支払・決済システムの中で適切な役割を担うためには、これまでにない新たなインフラやサービスが必要ではないか
- CBDCを含むデジタル通貨のために、そうしたインフラやサービスを効率的、効果的かつタイムリーに整備していくには、様々な新たな工夫が必要ではないか

- ✓ 新たなインフラやサービスを優先度とともに可視化する
- ✓ 既存のインフラやサービスの応用可能性を模索する
- ✓ そうしたインフラやサービスのビジネス上の意義を探る

問題意識2：次世代の デジタル通貨

- 特に主要国では、既存の支払・決済システムとの連携の必要性やそのための対応が、CBDCが具備する先進的な特性の採用を制約しているのではないか
- CBDCを含むデジタル通貨が本来の機能を発揮するには、通貨や銀行の機能を含めて、支払・決済のあり方を大きく変えることが有用ではないか

- ✓ ゼロベースからデジタル通貨のあり方を考える
 - ✓ そうしたデジタル通貨の意義を探る
- ✓ そうしたデジタル通貨による支払・決済を可視化する

フォーラムのプログラム（5月18日夜）

時間	内容	ご対応者
18:00～18:05	主催者挨拶	(事務局)
18:05～18:30	(第1セッション：デジタル通貨のエコシステム) リードコメント	大島様 (銀行の視点) 小早川様 (既存のインフラの視点) 山岡様 (民間デジタル通貨の視点) 吉永様 (資金決済事業者の視点) 楊研究員 (デジタル人民元における議論)
18:30～19:05	(第1セッション：デジタル通貨のエコシステム) 自由討議	パネリスト全員 (研究会メンバー)
19:05～19:15	(第1セッション：デジタル通貨のエコシステム) 質疑応答	(ご参加者)
19:15～19:45	(第2セッション：次世代のデジタル通貨) リードコメント	乾様 (アジア共通通貨の視点) 北村様 (仮想空間の視点) 高橋様 (通貨の歴史の視点) 福田様 (政策効果の視点) 片山研究員 (Stablecoinの視点) 西片研究員 (DLTの世界の視点)
19:45～20:20	(第2セッション関連：次世代のデジタル通貨) 自由討議	パネリスト全員 (研究会メンバー)
20:20～20:30	(第2セッション関連：次世代のデジタル通貨) 質疑応答	(ご参加者)

(参考) 「通貨と銀行の将来を考える研究会」の概要

第1フェーズ (2020年6月～)

▶ 中央銀行デジタル通貨 (CBDC) の展望と課題を提示

第2フェーズ (2021年7月～)

▶ 日本におけるCBDCの設計・枠組みに関する案を提示

JICA アドバイザ、ADB コンサルタント	乾 泰司氏
海外通信・放送・郵便事業支援機構社長	大島 周氏
立正大学データサイエンス学部長	北村 行伸氏
明治大学政治経済学部教授	小早川周司氏
大阪経済大学経済学部教授	高橋 亘氏
東京大学大学院 経済学研究科教授	福田 慎一氏
フューチャー経済・金融研究所長	山岡 浩巳氏
LINE Credit株式会社 代表取締役CEO	吉永 幹彦氏
野村総合研究所 (金融デジタルビジネスリサーチ部)	片山 謙
野村総合研究所 (金融デジタルビジネスリサーチ部)	西片 健朗
野村総合研究所 (上海)	楊 晶晶
<事務局> 野村総合研究所 (金融デジタルビジネスリサーチ部)	井上 哲也、石川 純子

- ・高度に専門的な知見を有するメンバーによる研究会で議論し、その成果を報告書に集約
 - 海外と日本、制度と技術、民間サービスと中央銀行の役割等の多様な視点から議論
 - 重要な論点に関するメンバーの異なる意見を併記し、浮かび上がったメッセージを記載
- ・民間事業者と政策当局との意見交換プロセスに貢献



- ・第1フェーズの議論の成果は「中間報告」として公表 (2021年5月)
- ・第2フェーズ前半の議論の成果は「進捗報告」として公表 (2021年12月)
- ・第2フェーズ全体の議論の成果を「統合報告」として公表 (2022年4月)

(参考) 「進捗報告」がカバーした論点：CBDCの「設計」

- 2021年12月に公表した「進捗報告」は、主要国での検討を踏まえながら、日本でのCBDCの「設計」に関する以下の3点について考え方を示した。

論点1.

匿名性の確保と個人の取引情報の利活用

- 銀行券と同様な支払・決済の匿名性を確保しつつ、取引情報の利活用をどう実現するか

- ✓ 匿名性の確保の方法
- ✓ トレードオフの抑制
- ✓ 取引情報の利活用の仕組み

論点2.

媒体の選択とオフラインの支払・決済

- 利便性や効率性の高い媒体を選択しつつ、銀行券と同様なオフライン支払にどう対応するか

- ✓ 利用金額や利用機会の想定
- ✓ 各媒体の比較優位
- ✓ オフライン支払のニーズと対応

論点3.

企業の取引情報の利活用とクロスボーダー取引

- 企業の取引情報の活用の便宜を図りつつ、クロスボーダー取引への拡張をどう進めるか

- ✓ 取引情報活用のニーズとケース
- ✓ 民間サービスとの連携
- ✓ 国際標準や金融安定との関係

考慮すべき要素

- 利用者、事業者、中央銀行、政策当局の複眼的視点
- 現時点での最適化と将来への柔軟性
- 海外の動向や意味合い

(参考) 「統合報告」がカバーした主な論点：CBDCの「枠組み」

- 2022年4月に公表した「統合報告」は、「進捗報告」がカバーした「設計」に関する主な論点に加えて、主要国での検討を踏まえながら、日本でのCBDCの「枠組み」に関する以下の4点について考え方を示した。

論点：コストの分担

- 中央銀行デジタル通貨の媒体やシステムの開発や運用のコストをどう分担するか

- ✓ 共同開発や運用の方法
- ✓ 中央銀行等の投資や支出
- ✓ 成果の共有と活用

論点：銀行預金との関係

- 中央銀行デジタル通貨の導入後の銀行預金との役割分担をどう整理するか

- ✓ 各々に期待される役割
- ✓ 機能を区別するための手段
- ✓ 新たな支払・決済手段との関係

論点：仲介機関の役割

- 中央銀行と利用者の中に位置する仲介機関は、どのような役割を担うべきか

- ✓ 仲介機関の機能と責務
- ✓ 仲介機関の適格性
- ✓ 金融安定の確保

論点：民間システムとの連携

- 民間事業者が運営する支払・決済システムと中央銀行デジタル通貨をどう連携するか

- ✓ 既存のシステムとの相互運用性や親和性
- ✓ 将来に導入・発展するシステムの想定や連携
- ✓ クロスボーダーの支払・決済の変化への対応

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

Share the Next Values!